# 向ヶ岡弥生町

News Letter

VOL.12　2015 年 4 月 1 日発行

中秋の名月　東京大学浅野地区から　2013 年 9 月 19 日　18:02 撮影

## 月景観と向ヶ岡・不忍池・忍ヶ岡

**はれゆきて又めくりくる秋もあらは**
**ふたたひ愛む武蔵野の月**

### 徳川齊昭の愛でた駒込邸の月景観

この句は水戸藩 9 代藩主 徳川齊昭が詠んだ句です。当時、幕府では第 13 代将軍 徳川家定の将軍継承問題が起きていました。徳川慶福を擁し南紀派を形成した井伊直弼に対抗し、齊昭は息子の一橋慶喜を擁して一橋派を形成します。安政 5（1858）年、直弼は大老に就任、幕府は米国と日米修好通商条約を締結します。将軍継承問題は慶福が将軍職を継承、徳川家茂（慶福）が第 14 代将軍に就任し一橋派は南紀派に敗れます。同年、将軍継承問題と条約調印について、一橋派の齊昭、越前藩主 松平慶永、尾張藩主 徳川慶恕、一橋家の一橋慶喜、水戸藩 10 代藩主 徳川慶篤は江戸城不時登城、直弼を詰問します。しかし、これを理由に一橋派は処分されます。齊昭は水戸藩駒込邸（中屋敷）で謹慎を命じられ幕政から排除されます。安政 6（1859）年に孝明天皇の戊辰の密勅が水戸藩に下されたことから、安政の大獄で齊昭は水戸での永蟄居を命じられ安政 6（1859）年 9 月 1 日、明け七つ頃（午前四時頃）、駒込邸を発輿、水戸へ向かいます（『水戸藩史料　上編坤、巻二十六』水戸市史編さん委員会 1982『水戸市史　中巻（四）』水戸市役所発 p.1031）。

齊昭は部屋住み時代（藩主就任前）の文政 11（1828）年の大火で小石川邸（上屋敷）が焼けたため駒込邸に避難します。当時を「向岡とて上野東叡山と相對峙邸を環て老杉長松園み都下紅塵中自ら仙境をなせり公此間にありて日夕心を和漢古今の書に潜め大に得る所あり」と記しています。「仙境」（俗界を離れた静かで清浄な土地）の向ヶ岡で学問を深めたと言います。（吉川弘文館 1970『水戸藩史料別記上』明治 30 年 5 月刊の再版 pp.19-20）。同年 3 月 10 日銘、齊昭筆の向岡記碑にも向ヶ岡への思いが記されています。水戸藩士 小宮山南梁（綏介）は『南梁年録』で齊昭が去った直後の駒込邸について「（安政六年九月）五日來ル七日（中略）一　駒籠御殿向風哭渡御手入れも無之候故蔦蔓抔御□（糸に象）江上り草ハ御庭中生茂り居申候」と御殿と庭園の荒れた景観を記しています（茨城県史編集会監修、茨城県歴史館編修、茨城県発行 1989『茨城県史料幕末編Ⅱ』p.255）。駒込邸を去る際に邸内は「仙境」とは程遠い状況だったのでしょう。駒込邸と自分の姿を重ね合わせ、再び「仙境」の向ヶ岡へ戻り月を愛でる。幕政への復帰も重ねたと考えられます。この句から向ヶ岡への思いと幕政への執着が伝わってきます。表紙の写真は 2013 年 9 月 19 日の東京大学浅野地区の研究棟屋上から観た中秋の名月です。駒込邸はなくなり、駒込邸の庭園跡から月の出を観る事はできません。周辺の景観は変わりましたが、齊昭の愛でた「武蔵野の月」は今も忍ヶ岡（上野）から昇ります。

### 高田藩主 榊原政令の愛でた不忍池の月景観

向ヶ岡に配置された高田藩中屋敷（現在の旧岩崎邸）に、第 11 代高田藩藩主榊原政令が建立した、文化 4 年（1807）銘「香月亭遺蹟碑辞」碑があります。「我が屋敷は、湯島神社に隣接し、眺望の良い高燥の地にある。この地こそは、（太田道灌の（筆者加筆））香月亭の跡地に他ならない。（中略）煌々と月が昇り、霧はあたかも煙の様で、まちなみさえも一軒一軒数えられそうである。浅草や不忍池の林がうっそうと茂り、夜更けに月が昇り詰める頃、当北東の不忍池の水面は月の光をまるで宝玉の様に映している。波が立てば、金を溶かしたかの様でもあり、天女の宮（加藤元信氏註、不忍池弁財天）の色彩豊かな瓦屋根が照り映えて、汀の草の露さえも珠玉の趣を感じさせる。飛びかわす大小の雁、群れをなす鴨、雨の朝、雪の暮れ、夜明けの月、夕霧、全てが香月亭の景観なのである。」（翻訳は加藤元信 1999「榊原家池之端屋敷跡と旧岩崎家茅町邸」日本造園学会誌 7、11-25）。弁天島の月景観、不忍池に映った月の風による変化を記し、月、雁、雨、暮雪、夕、帆といった瀟湘八景・西湖十景の景観要素を盛り込んでいます。「香月亭」は太田道灌の屋敷跡で金沢八景 称名寺の北条実時が植えた西湖梅を「香月亭」に植えます。林和靖の西湖の詩も引用。道灌は不忍池を西湖に見立てていたから政令は「香月亭」をこの地に構えたと断言し、歴史を残すため石碑を建立したと記しています。

不忍池北側は明治時代に埋め立てられ縮小、上野動物園西園などになっています。江戸時代、駒込邸は不忍池を借景しており、政令の愛でた不忍池の月景観があったと考えられます。

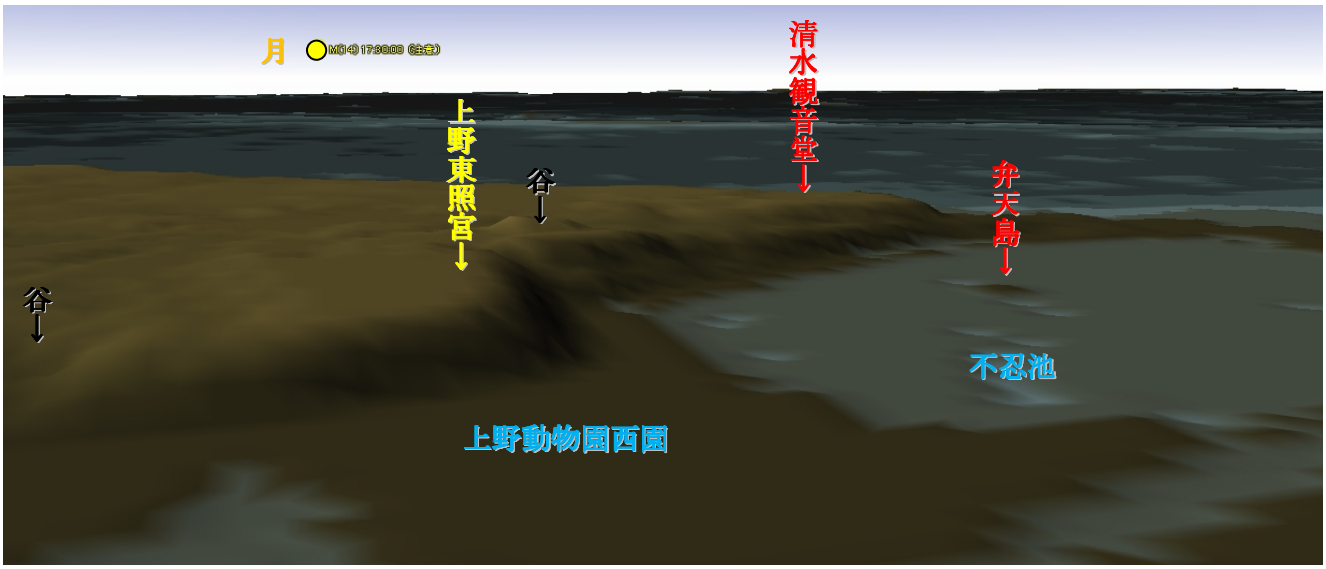
### 林羅山『武州州学十二景』の「霊池皓月」

忍ヶ岡の南端は桜ヶ岡と呼ばれ林羅山邸がありました。現在は西郷隆盛像が立っています。邸内には学問所、孔子廟、書庫がありました。羅山は『武州州学十二景』として周辺の景観を撰んでいます。この中の「霊池皓月」は不忍池の月景観です。林羅山邸の立地から、浅草方向から昇る月も見事だったはずです。しかし、「霊池皓月」を撰んだのは、向ヶ岡に沈む不忍池に映った月が見事だったからなのでしょう。狩野尚信の描いた「武州州学十二景」には明暦 3（1657）年、明暦の大火で焼失する前の江戸城天守閣が描かれています。この大火で林羅山邸も焼け蔵書も焼失。これが原因で羅山は亡くなったとされます。

## 不忍池と周辺の月景観

江戸時代の文献等から、不忍池西側の向ヶ岡、東側の忍ヶ岡の月景観は見事だった事が分かります。江戸時代の月景観は無くなりましたが、現在も同じように月が昇り沈みます。不忍池の整備が東京都によって進められており、蓮池の枯れ蓮は刈り取られ、榊原政令の「水面は月の光をまるで宝玉の様に映している」という不忍池の月景観が復活し新たな景観が創出されているはずです。

『向崗花旬図屏風』(個人蔵　News Letter Vol.3 掲載)に描かれた駒込邸表御殿庭園景観の画角(62°)
不忍池周辺の大名屋敷(安政年間)　児玉幸多監修 1994『復元・江戸情報地図』朝日新聞社より作成

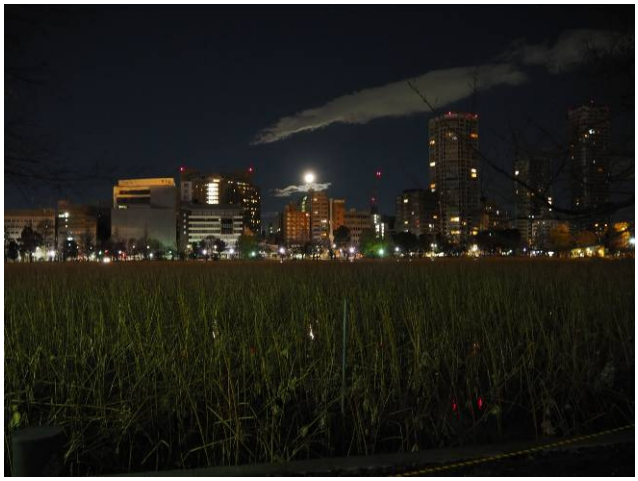



2013 年 9 月 9 月 19 日　17:30 『向崗花旬図屏風』に描かれた駒込邸庭園跡からの景観
眼高:17m(標高)+50m、画角 62°、俯角 11°、月齢:13.6　月の出 17:21　カシミール3D で作成

第 11 代 高田藩主榊原政令「香月亭遺蹟碑辞」
2014 年 2 月 2 日

「波が立てば、金を溶かしたかの様」榊原政令
不忍池(ボート池)に映る月　2014 年 1 月 16 日

「当北東の不忍池の水面は月の光をまるで宝玉の様に映している」榊原政令
不忍池(蓮池)に映る月　2012 年 12 月 27 日



「霊池皓月」向ヶ岡に沈む月　2014 年 1 月 1 日

東天紅新館からの不忍池の景観
2015 年 4 月 15 日

## 編集後記

2009 年から調査を始めた月景観をまとめました。昨年の皆既月食ではたくさんのお客さんが不忍池に集まり、月景観を楽しんでいました。江戸時代、不忍池は小西湖と呼ばれ、大名は大名庭園から景観を楽しみ、文人墨客は不忍池畔に集まり制作活動をし、庶民も景観を楽しみました。軍事国家の見本市となった時代もありましたが、それぞれの時代で人々は不忍池の月景観を楽しんでいます。不忍池の環境は変わりましたが、月は昔から忍ヶ岡から昇り向ヶ岡に沈みます。芭蕉の「不易流行」ですね。


# 向ヶ岡弥生町

News Letter
VOL.12　2015 年 4 月 1 日発行



発行　原　祐一
連絡先　〒153-8904
東京都目黒区駒場 4-6-1　東京大学埋蔵文化財調査室
携帯　080-5504-9782
メール　y-hara@dolphin.ocn.ne.jp



印刷　株式会社　芳文社
〒194-0037
東京都町田市木曽西 2-3-14　電話　042-792-3100